

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4077200147
法人名	医療法人社団 桜珠会
事業所名	グループホーム可也 桜の里 (ユニット名 1F )
所在地	〒819-1314 福岡県糸島市志摩師吉901-3
自己評価作成日	平成26年 8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成26年9月2日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日、全ての入居者に対して職員は挨拶をして必ず関わりを持つと共に、声掛けや接し方に力を入れ、笑顔が絶えない明るく家庭的な雰囲気づくりを目指している。又、昼夜を問わず、積極的にトイレの声掛け・誘導を実施し、心地良いトイレでの排泄が出来る様努めている。職員側では、日頃からこまめに話し合いの場を設け、情報の共有並びにチームワークの構築に力を入れている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの周囲には緑豊かな田園風景が広がり、すぐそばにある母体の病院の存在が利用者や家族に安心感を与えている。職員の資格取得や外部研修にも積極的に参加を促すとともに、職員間の自由な意見交換会などを行い、サービスを提供する上で共通認識をもって日々の生活を支援していることは利用者の明るい表情に表れている。当該地域には地域内の介護事業所で構成する連絡会があり、市の担当者や包括支援センター職員を含め緊密に連携し、地域全体の福祉サービスの向上に取り組んでいて、ホームの代表者はその主要メンバーでもある。間もなく設立後10年を迎えるホームの更なる進化が期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活の中での孤立や孤独を軽減していただくよういつもそばにいて家族のように寄り添い、その方の役割に注目してスタッフみんなで作った。	法人理念のほかに独自の理念を作成している。5項目ある理念はわかりやすい言葉で、契約時には、利用者や家族にも説明するとともに、職員は日常の業務につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の福祉体験授業の受け入れを行い、子供たちとのふれあいや交流を図っている。また地域行事や他施設への訪問などにより交流を深めている。	ホームで開催する夏祭りやバザーには地域住民を招待し、にぎやかである。また、年末には餅つきを行い、近隣の家へ配るなど、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校の福祉体験授業の一環として学校で認知症への理解を深める授業を行っている。また要請や相談があれば認知症や在宅支援についての説明なども広く行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での議題はその他の会議でも共通議題とし、意見や提案、改善内容などをサービス向上などに繋げている。	自治会長、包括支援センター職員、民生委員、警察署員、家族、利用者で行う運営推進会議では、ホーム行事の取り組みや事故、ヒヤリハットなどを報告している。いただいた意見や提案はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	この地域は、各事業所との連絡会が充実しており、市町村や社協との連携もや相談がともしやすい。	包括支援センターの職員とは利用者の状況などについて日常的に連携している。また、地域の介護事業所で構成する連絡会では、市の担当者と連携して地域全体で介護サービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、言葉の拘束や意識していない拘束等について常に勉強会を行っている。	身体拘束をはじめ言葉による拘束なども行っていない。玄関や入り口にはセンサーを取り付け、チャイムが鳴ると職員が見に行っている。ベランダなどにも自由に出入りができるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待や高齢者の人権についても常に勉強会を行い、スタッフが再認識できる機会をもうけている。またスタッフのストレスが虐待に繋がらないようスタッフのケアにも心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の人権について事例などを取り入れ勉強会を行い、必ず成年後見制度や権利擁護を関連付けて説明している。	成年後見制度を利用している利用者があり、担当の司法書士や家族と連携してサービスに努めている。勉強会も定期的に行い、必要な時には活用できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに十分時間を取り数回面談等を行い、気軽に何でも話せる関係づくりに重点をおいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から何でも話せるような関係作りに努めており、話しやすい体制を心がけている。また運営推進会議ではご家族や入居者も参加しており様々な意見の交流も行っている。	夏祭りや11月に行う感謝祭には家族が集まるため、意見を交換する機会になっている。また、職員は利用者を個別に担当しており、家族との連絡回数が多く、意見や要望も聞くことができている。家族からの意見や要望は職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	まず問題を提示し、チーフを中心にスタッフ全員で話し合い解決方法を導き出すよう促すことを基本としている。また月に1度自主的にスタッフのみで意見交換会を行っており、決定事項などの報告がチーフから上がってくる体制を作っている。	各フロアで行う意見交換会や月1回の全体会議では職員は自由に発言できている。この場で出た意見や提案は全員で検討し、できることから実施、一定の期間を置いて評価している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の実績や努力を法人に報告し、それをもとに毎年の昇給や賞与に反映されるよう積極的に働きかけている。また日頃から努めて有給休暇の取得や資格取得のための講習会への参加など気軽に行えるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	家族のような生活を理念でも唱っており、それはスタッフ同士でも同じことで、幅広い年齢層や職歴の職員による家族のようなチーム作りを目指しており、一人ひとりの特性を見極め生かせるよう心がけている。	20歳代～70歳代の男女の職員がいる。代表者は職員の気づきを認めるとほめるようにしており、職員が気持ちよく働けるように取り組んでいる。職員の資格取得や外部研修の参加にも積極的に支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権、権利擁護、成年後見制度、虐待防止、身体拘束排除を関連づけて定期的に勉強会を行い再確認を促している。	代表者は利用者の権利擁護や職員の人権教育に取り組んでいる。利用者に対して、命令や指示的な言葉、叱責などしないことは当然として、親しいなかにもなれ合いにならないよう、職員に日常的に教育している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ全員に勉強会や研修会への参加を割り当てたり、自ら希望した研修会への参加も積極的に費用を支給して行っている。また今年3人のスタッフが介護福祉士に合格している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークの連絡会やグループホーム協議会へ定期的に参加し交流会、勉強会、見学会など行いサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人・ケアマネジャー・チームで面談を行い、本人としっかりコミュニケーションを図り、困り事や不安、要望等に耳を傾け、本人の安心確保につながる信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家族・ケアマネジャー・チームでの面談を行い、家族等としっかり話をした上で、困り事や不安、要望等に耳を傾けると共に、その後も密に連絡を取り合い、信頼関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず本人・家族・入居前に利用しているサービス事業者・ケアマネジャー・チームで面談を行い、より多くの情報収集に努め、ケアマネジャーを中心に、的確な支援の見極めに努め、必要に応じて他のサービスも紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立書きや洗濯物たたみ、食器洗いや庭の草取り、花の水やり等、それぞれの入居者と共に行える活動を取り入れ、各入居者にも役割があると意識して頂ける様支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、積極的に家族へ面会や外出、外泊、電話等を促すと共に、家族参加型行事等を開催する事で、本人と共有する時間を作って頂ける様支援している。又、提携病院以外の受診については、家族へ送迎・付き添いを依頼し、家族への支援協力を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人・知人等の面会や外出、電話等について、キーパーソンの了解を得た上で受け入れている。日頃よりドライブ等で馴染みの地域や自宅周辺にお連れしている。地域の盆踊りやサロン等にも参加し、馴染みの関係維持に努めている。	利用者が、住み慣れた地域との繋がりを継続出来るように、理髪も訪問サービスを受けるのではなく、馴染みの店に連れていくように支援している。又個別の活動表を作成し、地域の集まりへの参加や、ホームで地域の方や家族が参加できる祭りを開催し、関係の維持を図っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつをリビング・談話室で皆で食べる体制をとり、毎日皆で行う活動の時間を設け、孤立せず、それぞれが支え合える様支援している。又、入居者同士の関係を把握した上で、必要があれば職員が間に入る等の工夫をし、入居者同士の交流、関係維持に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には必ず、どのような事でも構わないので、いつでも気軽に相談して頂く様声掛け、促しを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに担当者を設け、本人や家族とこまめにコミュニケーションをとり、連携しながら希望や意向の把握に努めている。	担当制を用いており、日頃の会話や行動から意向や希望の把握に努めているが、意思疎通困難な方にはしっかりと表情や動作を見て汲み取るようにしている。又職員間では得た情報を申し送りノートで共有しケアに反映するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談での情報収集はもとより、入居後も課題、問題点を見つけ、ケアプランに反映している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に職員間で話し合いの場を設け、情報の把握、共有に努め、日々の暮らしに取り入れている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネジャーを中心にケアカンファレンスを開き、本人、家族、関係者等の意見を求め、現状に即した介護計画作成に努めている。	臥床時間が長い利用者、運動を兼ねて花の水やりを促したところ便秘の解消につながった等、日々の職員の気づきを介護プランに取り入れている。母体のリハビリ担当者の指導を受け、利用者への状況に即したプランの見直しも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の訴え、家族からの意見、職員の気づき等を記入する欄を設け、ケアの改善等に活かし、すぐに対応出来る様になっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等によって生じるニーズにたいして検討し、その都度柔軟に対応できる様心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・シルバー人材センター・小中学校等の協力を求め、安全で豊かな暮らしを目指している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族にかかりつけ医について希望を伺い、連携に努め、適切な医療を受けられる様支援している。	母体病院からの利用者が大半であるが、その他、在宅時からのかかりつけ医のある利用者には、家族または職員が付き添い受診支援を行っている。受診結果は家族と職員が共有できるようにしている。週1回、訪問歯科があり、口腔ケアに努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師と入居者の情報・気づき等を伝達し合い、日々相談を行っている。又、受診の必要性やケアについてのアドバイス等についても相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、病院への情報提供を行っている。また、入院後もこまめに面会を行い、情報の共有に努め、退院前には経過把握並びに情報交換に努め、退院に備えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について指針を示し、本人・家族の同意を得ている。又、本人・家族の意向を大切にしながら、医師・看護師・職員等の関係者間で話し合いを重ねている。又、対応困難な際には、本人・家族と話し合い、適切なサービスを受ける事が出来る様努めている。	利用開始時に説明は行いが、今までに看取りの事例はない。母体が病院ということもあり、マニュアル作成や職員も冷静な対応が出来るように勉強会は継続的に行っている。今後も連携を取りながら、必要な時には対応出来る環境作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の全体会議にて、事故発生時や急変についてのカンファレンスを行い、情報の共有、並びに、対応・対策の早期実施に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下、年2回、昼夜を想定した避難誘導訓練を実施している。又、自治体主催の福祉避難所ネットワークにも加盟し、災害時の避難受け入れ施設としても登録している。	日頃から防災意識が高く、スプリンクラー設置や、防災マップの掲示をはじめ、職員自らも災害体験の研修を受けることで利用者を恐怖感なく安全に誘導できるように訓練をしている。母体病院との連携や夜間の緊急対応も出来ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉遣い・接し方を目標として掲げ、職員同士でも指摘し合える環境づくりに努めている。又、トイレ・入浴時には、出来る限り同性介助を心がけ、安心して頂ける様に声掛け・支援している。個人の記録等は人目につかない様に保管・管理し、プライバシー保護に努めている。	利用者の尊厳を守るよう職員の言葉使いを厳しく指導し、職員に周知徹底している。不適切な対応が見受けられた場合は職員間で注意し合える環境作りを行っている。利用者同士でも尊厳を損なうことがないように、席を離すなどの細やかな対応を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに気軽に思いや希望を言って頂ける様、又、自己選択や自己決定を引き出せる様な声掛け・雰囲気づくりを行っている。希望に対しては、入居者本人と職員で話し合い、本人の了解を得た上で支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事・活動等その都度声掛けを行い、無理強いせず、入居者一人ひとりに合わせて希望の曜日・時間等対応している。喫煙や買い物、外食やサロン等、それぞれの希望に沿った対応が出来る様、職員間での連携にも努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを行う際には、一緒に洋服を選び、時期に合わせて衣替えも行っている。又、定期的に散髪にお連れし、爪切りやひげそりも実施している。女性入居者は必要に応じて化粧やマニキュア等の支援も行っている。外出の際等は、施設内とは違うおしゃれをして頂ける様支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、献立書きや盛り付け、食器洗い等を職員と一緒にやっている。野菜等の栽培・収穫、干し柿作り等を通して、食への関心や季節を感じて頂ける様支援している。職員も検食を兼ね入居者と一緒に食事を摂る事で、楽しい食事の時間となる様、雰囲気作りに努めている。	「食事を摂取すること」に重きを置き、献立は専門家に委託し、利用者の嚙下力に添った食事を提供している。食事制限がある場合は、食器や盛り付け方で違和感なく食べる工夫や、ミキサー食の利用者には食材と季節の話を伝える配慮も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談・指導の上、バランスのとれた食事を個人に合わせた食事形態にて提供している。又、毎日食事量・水分量をチェックし、状態に応じて高カロリー食やゼリーを提供する等、栄養並びに水分確保にも努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア並びに毎晩の義歯ポリドント洗浄を実施し、口腔内の清潔保持に努めている。又、口腔内観察を行い、必要に応じて提携歯科による歯科往診も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後の日々の観察並びに排泄チェック表を用いて、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼・夜共にトイレの声掛け・誘導を行い、羞恥心・自尊心に配慮した排泄支援を実施している。	常時おむつ着用者はいない。「トイレで排泄すること」を基本に、利用者の排泄パターンを職員が共有し、昼夜通して声をかけて、トイレ誘導を行っている。更衣もゆったりとできるほどトイレは広く、尊厳を損なうことなく対応できるつくりになっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常時排便チェックを行い、便秘傾向の方には腹部マッサージの実施や、乳製品・食物繊維を多く含む食品を提供する等、飲食物の工夫にも力を入れ、自然排便を促している。必要に応じて主治医や専従看護師に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者本人に入浴の頻度や曜日等の希望を聴き、入浴日を決定している。又、入浴日には、必ず事前の声掛けにて入浴確認を行い、拒否や時間変更の訴えがあれば、本人の希望に沿う様、柔軟に支援している。	午前中に入浴希望が多く、個浴、同性介助で対応している。嫌がられる場合でも無理強いすることはなく、長湯を好む方にも満足してもらえる入浴時間を取れるよう支援をしている。また、入浴後は毎回浴槽を掃除し新しい湯を入れ、気持ち良く入浴できるよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握した上で、寝具・室温・照度等の環境面にも気を配り、安眠につながる環境づくりを心がけている。又、状態に応じて適宜、昼寝等も促している。夜間不眠時等の際には、会話・お茶をしながら職員が傍に寄り添い、不安の軽減を図っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルをリビングへ設置し、職員が薬への理解・把握が出来る様にしている。毎日の薬セット・与薬時には職員2名にてダブルチェックを行い、安心できる服薬支援を行なっている。処方薬変更時や状態変化時等は特に入居者の様子を細かく観察し、随時、主治医等に相談している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で行う毎日の体操等のレクリエーションや、個別的活動(洗濯物たたみ・デッサン・料理盛り付け・くもん学習療法等)を実施している。又、花や野菜を育て、草取り・水やりを行い、季節感や育てる喜び、達成感を持って頂ける様努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的のみならず、入居者の希望に応じて可能な限りドライブ・散歩・散髪・買物等にお連れしている。また、外出行事や地域行事、病院・他施設の行事にも積極的に参加している。家族にはGWや盆、正月等の外出・外泊も促している。	天候や体調を考慮して、希望する場合は毎日でも散歩・外出支援をおこなっている。外出が困難な方にもドライブで季節を感じられるようにしている。外出先で見た花を庭に植えたりして、思い出せる工夫も行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭は、当ホームで管理しており、買い物等必要時に使って頂いている。高額な買い物等は、家族に相談した上で対応している。一部の入居者については小遣い制をとり、小遣い帳を用いて職員と一緒に金銭管理を行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や状況に応じて家族や友人との電話や手紙のやりとり等が出来る様支援している。毎年、家族宛ての年賀状を書いて頂く支援も行っている。電話については静かな場所にも設置し、周りを気にせず話せる環境を作っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には四季折々の花を飾り、室温も、不快感のない様、こまめに調節している。リビングにはソファ・テレビ・ラジカセ等を設置し、談話室にもテレビ・新聞・マッサージチェア・本棚を設け、自由にくつろぎ楽しめる空間づくりに努めている。	リビングからは緑豊かな田園風景が広がり、居室前の廊下に沿って縁台が設置されている。庭先で寛ぐ人や利用者同士で会話を楽しむ人もおり、居心地よく過ごせる工夫がある。廊下は職員と利用者共同の手作りの作品があり、和みの空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・椅子・ソファ・テレビ等の配置を入居者と話し合い、又、入居者間の関係性を踏まえた上で、それぞれの希望に沿う様決定し、より良い共用空間作りに努めている。談話室も二か所設け、それぞれ好きにくつろいで頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら、使い慣れた家具や思い出の品、好きな物等を持ち込んで頂き、居心地の良い空間作りに努めている。又、大切な人や家族の写真、行事等での思い出の品を飾り、家庭的な個人の空間となる様工夫している。	居室は広く、馴染みの家具や椅子、テーブルを持ち込んでゆとりがあり、自宅と同じ雰囲気でも過ごすことができている。思い出の写真や季節の花も好みにより飾るようにしている。個室のドアは全開放でき、避難時の誘導や引きこもり難いつくりになっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	赤い手すりで見やすしたり、トイレの鍵や洗面所の蛇口も入居者が簡単に操作できるようにしている。居室のドアに居室番号を貼り、一部の入居者の居室には名前を貼り自分の部屋が分かる様工夫している。		